

水戸市立図書館デジタルアーカイブの活用

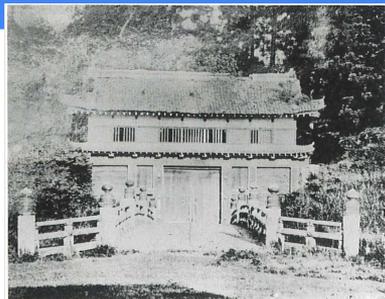
下の写真は明治~昭和に撮影された水戸の史跡の写真です

史跡が作られた順にならべよう

今は史跡がどうなっているか調べよう

デジタルアーカイブを使って
史跡について調べよう

水戸の史跡



史跡の名称から調べよう

4つの写真は水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』に掲載されている。

水戸市立図書館/デジタルアーカイブ



国指定名勝「常磐公園(偕楽園)」

水戸市立図書館が所蔵する貴重資料コレクションの「常磐公園叢書図誌」、明治期から昭和初期の水戸市の地図、水戸の町名/まちの移り変わりと標示柱などをデジタル画像で閲覧いただけます。

水戸百年

平成元年に水戸市100年委員会により発行された写真集「水戸百年」は、明治・大正・昭和と移りゆく水戸市を写真集にまとめたもので、水戸市の大変貴重な地域資料です。当時の風景写真とほぼ同じ地点から撮影した現在の風景写真がご覧いただけます。また、その場所を「水戸市市街詳細地図」、「中心商店街マップ」で確認いただけます。

『水戸百年』目次 写真一覧

水戸市立図書館デジタルアーカイブ トップ画面
[ADEAC\(アデアック\): デジタルアーカイブシステム\(trc.co.jp\)](http://trc.co.jp)

		①ありし日の水戸城三階櫓
		②水戸城郭の遠望
		③大手門
		④弘道館正門 = 明治初年
		⑤弘道館正庁
		⑥二の丸と三の丸の間に架かる大手橋
		⑦偕楽園 (見晴らし広場から好文亭を望む)

水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
写真集「水戸百年」編集委員会
[水戸百年 掲載写真一覧画面\(trc.co.jp\)](http://trc.co.jp)

史跡の名称から調べよう

		①ありし日の水戸城三階櫓
		②水戸城城郭の遠望
		③大手門
		④弘道館正門 = 明治初年
		⑤弘道館正庁
		⑥二の丸と三の丸の間に架かる大手橋
		⑦偕楽園（見晴らし広場から好文亭を望む）

史跡の名称

(1)水戸城城郭

(2)大手門

(3)弘道館

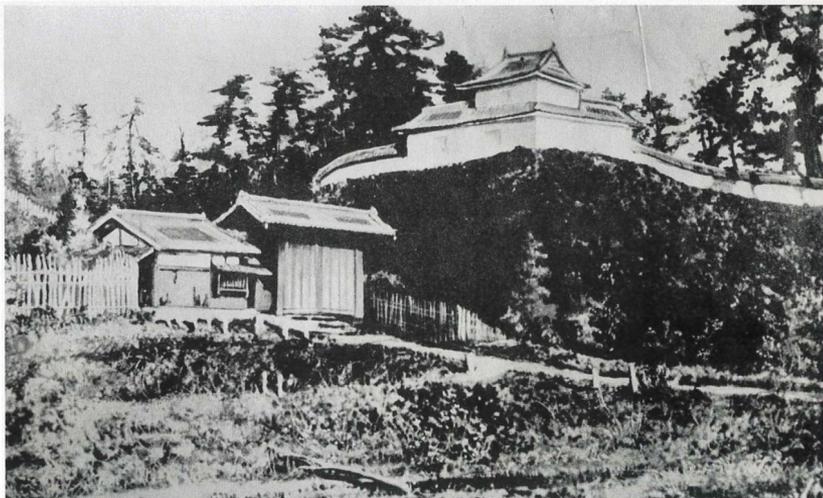
(4)偕楽園

調べてみよう
・いつ作られた
・今の様子は

水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
写真集「水戸百年」編集委員会
水戸百年 掲載写真一覧画面(trc.co.jp)

(1)水戸城城郭

昔の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』

②水戸城城郭の遠望(trc.co.jp) 写真集「水戸百年」編集委員会
上写真の目録データ／解説・説明

中央左の門から奥が現在の三高、附属小、二中に及ぶ旧二の丸の地。写真右、丘の白壁に囲まれた中が本丸で、現在の一高の場所。水戸城は佐竹時代から二の丸を事実上の本丸としてここに城館を構え、本丸は武器庫その他の倉庫の場所として、ついに天守閣や石垣は築かずに終わった。

ADEAC(アデアック):デジタルアーカイブシステム(trc.co.jp)

解説

現在の県立水戸第一校高等学校の場所に馬場小次郎資幹が、平安時代から鎌倉時代の始めにかけて館をつつた。佐竹時代(安土・桃山時代)からは二の丸を本丸として城館を構えた。

調べてみよう

- ・水戸城三階櫓 → 2-6ページで解説
- ・馬場小次郎資幹
- ・佐竹時代
- ・本丸と二の丸の位置

(1)水戸城城郭

今の写真



馬場氏がつくった館(本丸)のあたり

水戸城址

幕末の水戸藩は藩内で抗争が続いた。明治元(1868)年に弘道館と水戸城の間で戦いが起こった。明治5(1870年)には何者かに水戸城が放火される事件が起こった。唯一残されていた三階櫓も、水戸空襲によって焼失した。

調べてみよう

- ・水戸城三階櫓 → 2-6ページで解説
- ・幕末の水戸藩
- ・弘道館戦争
- ・現存する史跡は
- ・現在の地図で位置を調べよう
(水戸城址／水戸城御三階櫓跡)

写真の外左側

二の丸

水戸城
三階櫓跡

水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
水戸城城郭の遠望2020年時点の写真(trc.co.jp)

参考:水戸城三階櫓

昔の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』

①ありし日の水戸城三階櫓(trc.co.jp) 写真集「水戸百年」編集委員会
上写真の目録データ 解説・説明

ADEAC(アデアック):デジタルアーカイブシステム(trc.co.jp)

解説

「水戸城は(~中略~)慶長14(1909)年に徳川頼房公が水戸に封じ込められるとともに水戸徳川家の居城となります。頼房公は三の丸や外堀の整備拡張を行い、二の丸に御殿を造営、併せて三階物見と呼ばれる櫓を建設しました。しかしこの三階物見は明和元(1764)年の火災で焼失、後に再建された際に屋根を銅瓦葺きとし、天守らしく鯨を上げ三階櫓(御三階層)と呼びました。(~中略~)昭和20(1945)年に水戸空襲で焼失するまで、水戸のシンボルとして親しまれました。」

「引用元:一般社団法人水戸観光コンベンション協会ホームページ水戸城跡
参照:2021年11月17日」

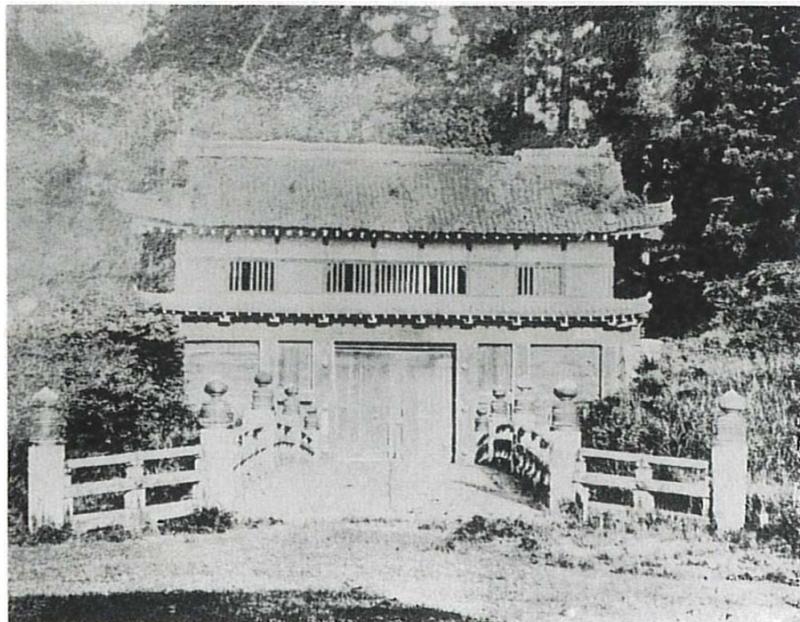
[水戸城跡](http://mitokoumon.com) « [水戸市の観光情報サイト「水戸旅」](http://mitokoumon.com)【公式】水戸観光コンベンション協会 (mitokoumon.com)

調べてみよう

- ・徳川頼房
- ・外堀の整備拡張
- ・水戸空襲

(2)大手門

昔の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
③大手門(trc.co.jp) 写真集「水戸百年」編集委員会
上写真の目録データ 解説・説明
[ADEAC\(アデアック\): デジタルアーカイブシステム\(trc.co.jp\)](http://trc.co.jp)

解説

「水戸城の正門にあたる、最も格式の高い門です。佐竹氏が水戸城主だった慶長6(1601)年頃に建てられ、その後、何度かの建て替えが行われた後、明治年間に解体されたと考えられています。」

「引用元: 水戸市ホームページ水戸城大手門復元整備記念リーフレット」
[ootemon.pdf\(mito.lg.jp\)](http://ootemon.pdf(mito.lg.jp)) 更新: 2020年6月8日」

慶長6(1601)年 ➔ 安土桃山時代

調べてみよう

- ・佐竹時代
- ・水戸城の城門
- ・廃藩置県
- ・明治時代の廃城令

(2)大手門

今の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
大手門 2020年時点の写真(trc.co.jp)

解説

「市では水戸城跡周辺地区の歴史的景観の向上をはかることで、水戸城の魅力を高め、歴史的資源として市民や観光客が集い、交流する場となるような歴史まちづくりを進めています。その事業の一環として大手門・二の丸角櫓・土塀といった水戸城を象徴する歴史的建造物の復元・整備を行い、水戸城跡の風情を感じることができる景観整備を進めます。」

「引用元:水戸市ホームページ水戸城大手門・二の丸角櫓を復元しよう! [水戸城大手門・二の丸角櫓を復元しよう!](http://watercity.mito.lg.jp) | 水戸市ホームページ(mito.lg.jp) 更新:2017年5月17日」

「復元整備を進めておりました水戸城大手門が、令和 2年2月4日をもって完成しました。」

「引用元:水戸市ホームページ復元・水戸城大手門復元・水戸城大手門 | [水戸市ホームページ](http://watercity.mito.lg.jp)(mito.lg.jp) 更新:2020年6月8日」

調べてみよう

- ・市のまちづくり事業
- ・大手門復元・整備
- ・二の丸角櫓の復元・整備
- ・土塀の復元・整備

(3)弘道館

昔の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』⑤弘道館正庁
⑤弘道館正庁 (trc.co.jp) 写真集「水戸百年」編集委員会
上写真の目録データ 解説・説明
ADEAC(アデアック): デジタルアーカイブシステム(trc.co.jp)

解説

徳川齊昭が江戸時代(天保12(1841)年)に藩士とその子弟の教育のために建てた藩校。徳川齊昭が藤田東湖や金沢正志斎の考えを取り入れた。明治5年までの約30年間、水戸の藩校だった。

調べてみよう

- ・人物
(徳川齊昭／藤田東湖／金沢正志斎)
- ・藩校
- ・弘道館の役割・思想
- ・建物ごとに何を学んでいたのか

(3)弘道館

今の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
弘道館正門＝明治初年2020年時点の写真(trc.co.jp)

解説

「明治5年(1872年)の「学制」発布により弘道館は閉鎖され、県庁舎や学校の仮校舎として使用されました。幾度の戦火を免れた正門、正庁及び至善堂は、昭和39年(1964年)に国の重要文化財に指定され、現在約3.4haの区域が「旧弘道館」として国の特別史跡に指定されています。(～中略～)平成27年4月には、「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」の構成文化財として、文化庁が創設した日本遺産に認定されました。」

「引用元:いばらき観光キャンペーン推進協議会ホームページ日本最大の藩校 弘道館 弘道館の概要 参照2021年11月21日」
概要 | 観光いばらき (ibarakiguide.jp)

調べてみよう

- ・弘道館の変遷
- ・重要文化財
- ・日本遺産
- ・弘道館の行事・所蔵物・展示物

(4)借楽園

昔の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』

①借楽園(見晴らし広場から好文亭を望む)＝昭和年ころ(trc.co.jp)

写真集「水戸百年」編集委員会

上写真の目録データ 解説・説明

ADEAC(アデアック):デジタルアーカイブシステム(trc.co.jp)

解説

徳川齊昭の設計により、江戸時代(天保13(1842)年)に開園した。(弘道館の翌年)

弘道館が文武就業の場であるのに対して、借楽園は修行の余暇を利用して休養の場として、みんながともに楽しめるようにつくられた。

園内の梅林には、つくられたときは200種、7000本あまりの梅の木があった。

調べてみよう

- ・借楽園の役割・思想
- ・好文亭と楽寿楼
- ・梅林(梅の種類)
- ・梅のほかの植物
- ・借楽園の景色
- ・常磐神社／義列館／東湖神社

(4)借楽園

今の写真



水戸市立図書館デジタルアーカイブ『水戸百年』
借楽園(見晴らし広場から好文亭を望む)＝昭和年ころ2020年時点の
写真 (trc.co.jp)

解説

「明治維新後は日本初の指定公園の一つになり、梅の名所として全国の人々に親しまれました。昭和 20年8月2日の水戸空襲では好文亭をはじめほとんどの施設が消失し庭園は荒廃しますが、戦後 10年を経て再建され現在も美しい水戸の名所として親しまれています。」

「引用元: 日本三名園借楽園公園ホームページ歴史を知る

参照: 2021年11月20日」

[歴史を知る | 日本三名園借楽園 \(ibaraki-kairakuen.jp\)](http://ibaraki-kairakuen.jp)

調べてみよう

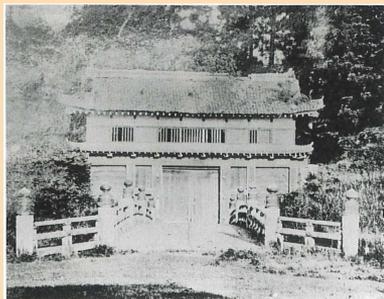
- ・国の史跡・名勝の指定公園
- ・借楽園の変遷
(敷地／好文亭／梅林／景色)
- ・千波湖の変遷
- ・日本三名園

史跡ができた順にならべよう

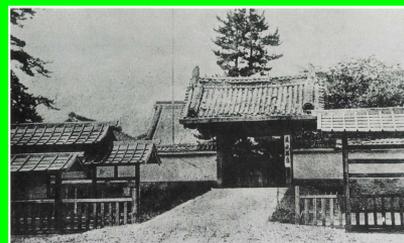
答えは



(1)水戸城城郭
平安時代～鎌倉時代
築館



(2)大手門
安土桃山時代
建立



(3)弘道館
江戸時代
(天保12(1841)年)
設立



(4)偕楽園
江戸時代
(天保13(1842)年)
設立

参考資料:

- ・『みとの歴史』 水戸市教育委員会発行
- ・『水戸百年』 写真集「水戸百年」編集委員会編集
- ・『水戸の城下町マップ 幕末版』 小野寺敦著 水戸観光コンベンション協会発行

参考Webサイト:

- ・水戸市立図書館デジタルアーカイブ.水戸百年
写真集「水戸百年」編集委員会編集
[ADEAC\(アダック\):デジタルアーカイブシステム \(trc.co.jp\)](http://trc.co.jp)
- ・水戸市役所ホームページ.歴史文化財課(文化財)
[歴史文化財課\(文化財\)|水戸市ホームページ \(mito.lg.jp\)](http://mito.lg.jp)
- ・いばらき観光キャンペーン推進協議会ホームページ.日本最大の藩校 弘道館
[弘道館～日本最大規模の藩校 江戸時代の総合大学～ \(茨城県水戸市\)|観光いばらき \(ibarakiguide.jp\)](http://ibarakiguide.jp)
- ・日本三名園 偕楽園公園ホームページ
[日本三名園 偕楽園 \(ibaraki-kairakuen.jp\)](http://ibaraki-kairakuen.jp)
- ・日本三名園 偕楽園ホームページ みんなで学ぼう! 偕楽園
[みんなで学ぼう! 偕楽園 | 日本三名園 偕楽園 \(ibaraki-kairakuen.jp\)](http://ibaraki-kairakuen.jp)